

折に触れ 四字熟語

NO. 342 『無用之用』 むようのよう

< 意味 > 役に立ちそうもないと思っていたものが、かえって重要な働きをすること。

< 出典 > 『老子』 一章

語 釈 : 「無用」は役に立つような働きがないこと。「用」はその逆で役に立っていること。

一 言 : 今年のノーベル生理学・医学賞に坂口志文氏、ノーベル化学賞に北川進氏がそれぞれ受賞しました。日本人として誇らしく思います。

北川氏に関わる朝日新聞の記事の中に「…物質にあいた無数の「孔」(穴)。着目したきっかけは学生時代に読んだ書籍にあった老荘思想の「無用之用」という考えだった。…」とあったので取り上げました。

参考文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」